

## 第2章 ふれあい広場あつべつ・科学館公園を取り巻く現況

### 1 札幌市・厚別区の現状

#### (1) 人口

##### 札幌市の人口

「将来推計人口に基づく地域分析調書（平成 26 年 10 月）」の推計によると、これまで増加し続けていた札幌市の人口は、2017 年（平成 29 年）をピークに減少に転じ、2037 年の推計は、約 180 万人まで減少すると見込まれています。また、老年人口(65 歳以上)の割合は 2037 年で 35.1%にまで増加し、3 人に 1 人以上が高齢者になると見込まれています。

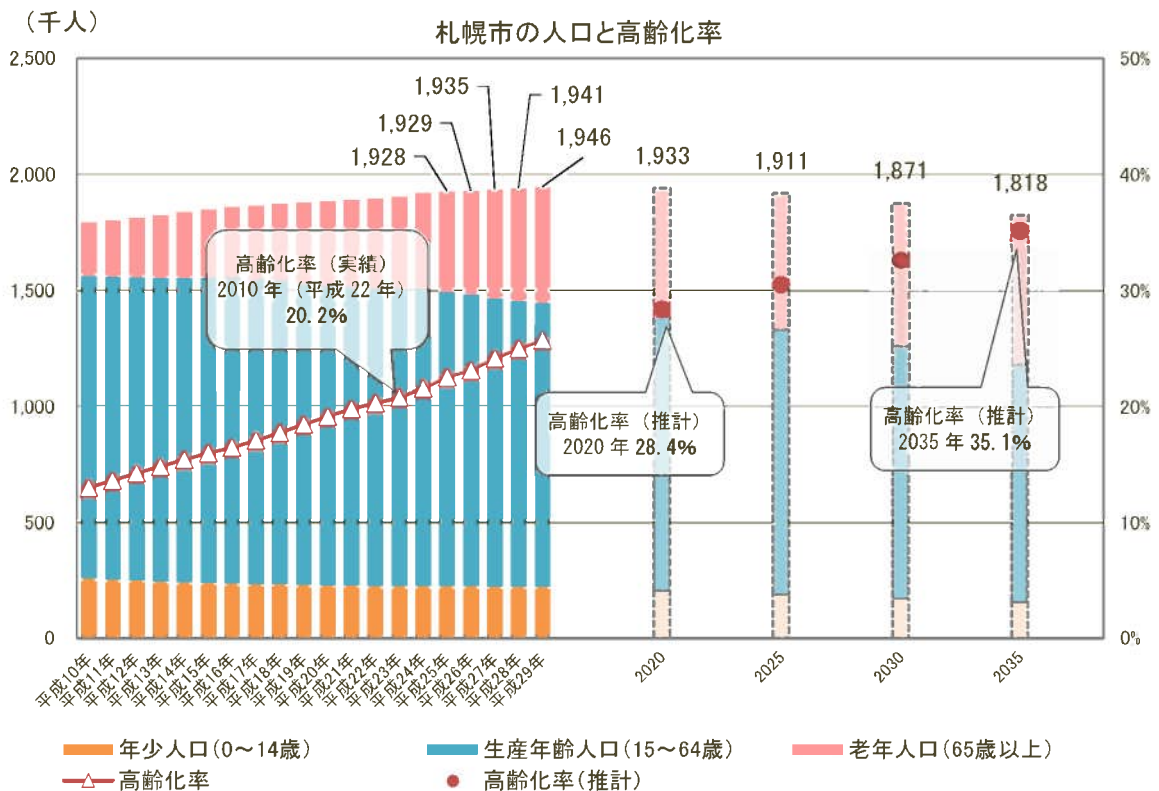


図 2-1 札幌市の人口と高齢化率の推移(推計含む)

※高齢化率の実績は 2008 年（平成 10 年）～2017 年（平成 29 年）、推計は平成 32 年～47 年を表示しています。

※高齢化率とは、全体に占める 65 歳以上の人口の割合を意味します。

出典：実績は住民基本台帳（各年 10 月 1 日現在）、推計は将来推計人口に基づく地域分析調書

## 札幌市の区別の人口

区別の人口は、2015年（平成27年）と2017年（平成29年）を比べると、南区と厚別区は既に減少に転じています。

厚別区は、2035年には、2015年（平成27年）に比べ、約1万8千人（約15%）減少することが見込まれています。

表 2-1 札幌市の区別の人口

	2015年 平成27年	2016年 (平成28年)		2017年 (平成29年)		2020年		2025年		2030年		2035年	
	人口 (人)	人口 (人)	2015年 対比	人口 (人)	2015年 対比	人口 (人)	2015年 対比	人口 (人)	2015年 対比	人口 (人)	2015年 対比	人口 (人)	2015年 対比
札幌市	1,941,078	1,947,127	100.3%	1,951,640	100.5%	1,933,000	99.6%	1,911,000	98.5%	1,871,000	96.4%	1,818,000	93.7%
中央区	229,936	232,129	101.0%	233,576	101.6%	246,400	107.2%	254,200	110.6%	259,300	112.8%	262,100	114.0%
北区	283,001	284,585	100.6%	285,441	100.9%	286,500	101.2%	285,200	100.8%	281,400	99.4%	275,200	97.2%
東区	259,648	261,212	100.6%	262,048	100.9%	254,700	98.1%	250,500	96.5%	244,300	94.1%	236,400	91.0%
白石区	210,577	211,164	100.3%	211,679	100.5%	204,700	97.2%	201,900	95.9%	197,400	93.7%	191,600	91.0%
厚別区	129,200	128,339	99.3%	127,854	99.0%	124,700	96.5%	120,900	93.6%	115,900	89.7%	110,000	85.1%
豊平区	218,841	219,849	100.5%	221,094	101.0%	212,100	96.9%	208,700	95.4%	203,700	93.1%	197,400	90.2%
清田区	114,988	115,167	100.2%	115,008	100.0%	118,400	103.0%	117,100	101.8%	114,700	99.7%	111,300	96.8%
南区	141,032	140,026	99.3%	138,999	98.6%	133,900	94.9%	126,200	89.5%	117,800	83.5%	108,700	77.1%
西区	212,671	213,262	100.3%	214,066	100.7%	213,400	100.3%	210,500	99.0%	205,700	96.7%	199,300	93.7%
手稲区	141,184	141,394	100.1%	141,875	100.5%	138,600	98.2%	135,500	96.0%	131,200	92.9%	125,700	89.0%

実績 ← 推計

※出典：実績は住民基本台帳（各年10月1日現在）、推計は将来推計人口に基づく地域分析調査（札幌市）

## 厚別区の人口

厚別区の人口は、2017年（平成29年）10月時点では、約12万9千人となっています（市内10区のうち、下から2番目の人口）。また、世帯数は、約5万5千世帯となっています（札幌市10区のうち、下から2番目の世帯数）。

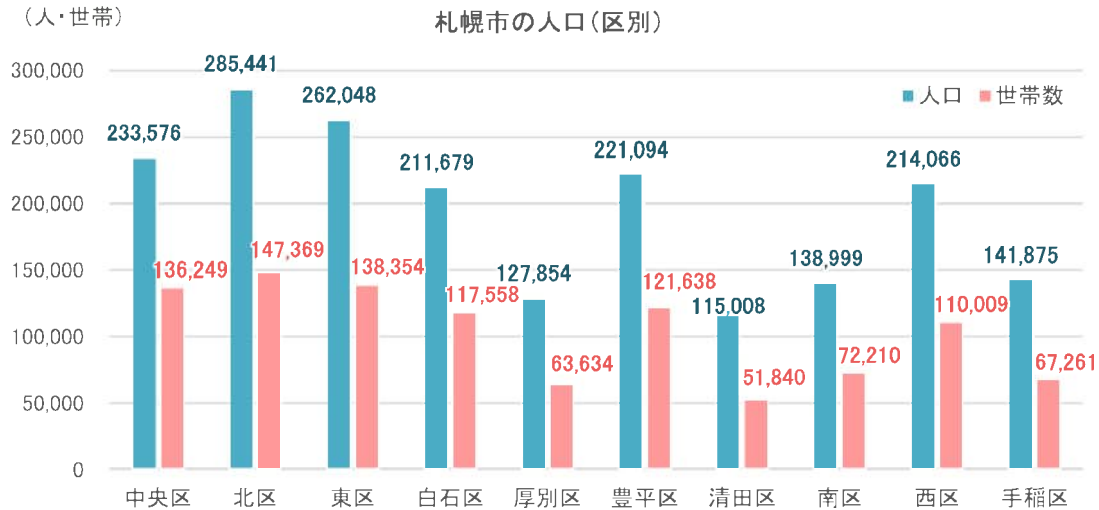


図 2-2 札幌市の区別の人口

※出典：住民基本台帳（2017年（平成29年）10月1日現在）

厚別区の将来人口は、2015年（平成27年）から2035年までに、生産年齢人口が約3割減少、老年人口が約1.2倍増加し、少子高齢化が進行することが見込まれています。

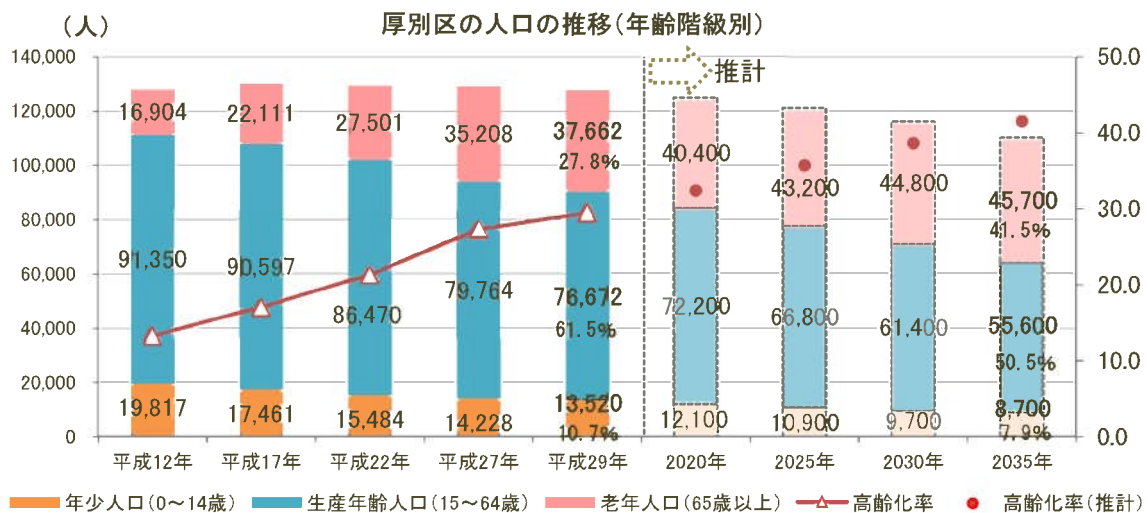


図 2-3 厚別区の人口の推移(推計含む)

※出典：実績は住民基本台帳（各年10月1日現在）、推計は将来推計人口に基づく地域分析調査（札幌市）

## (2) 公共交通機関

厚別区は、JR 函館本線（全 2 駅）と JR 千歳線（全 2 駅）及び地下鉄東西線（全 3 駅）が敷設されており、市内でも交通利便性の高い地域となっています。

中でも、新さっぽろ駅周辺地区は、JR と地下鉄が重層的に配置され、バスネットワークも充実しているなど非常に交通至便な地域となっており、地下鉄の始発駅でもあることから、多くの人が足を運ぶ地域となっています。

### 地下鉄

新さっぽろ駅の 1 日平均乗車員数は 2012 年（平成 24 年）から増加傾向にあります。2015 年（平成 27 年）は札幌市営地下鉄の中で、さっぽろ駅、大通駅、麻生駅に次いで 4 番目に多くなっています。

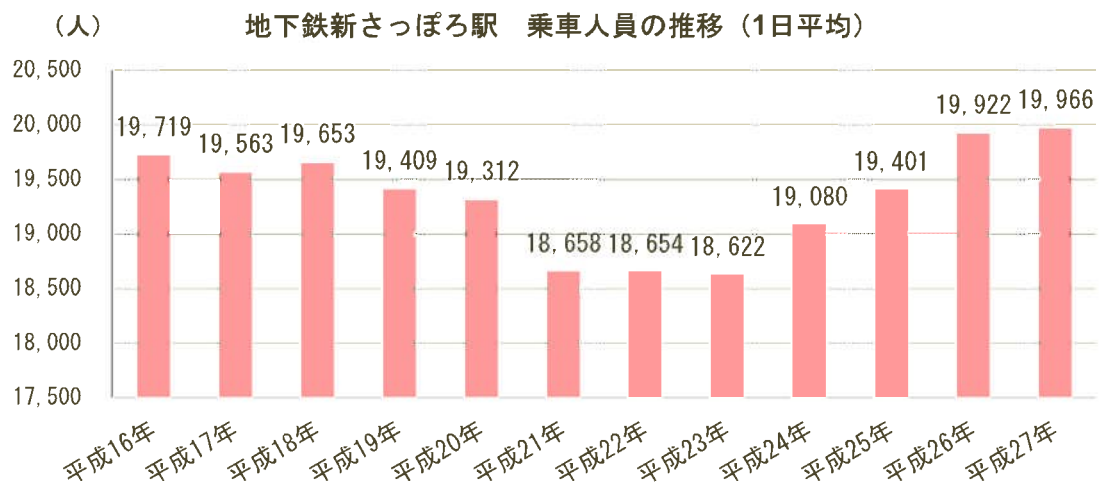


図 2-4 地下鉄新さっぽろ駅 乗車人員の推移(1日平均)

出典：札幌の都市交通データ（札幌市）

表 2-2 主要駅の乗車人数上位 10 駅(2015 年度(平成 27 年度))

位	駅名	乗車人員 (人/日)
1	さっぽろ	85,299
2	大通	76,736
3	麻生	20,658
4	新さっぽろ	19,966
5	福住	17,048
6	すすきの	16,971
7	西 11 丁目	15,524
8	西 18 丁目	15,505
9	円山公園	14,601
10	北 24 条	13,897

## JR

新札幌駅の利用者数は、2009年（平成21年）以降増加傾向にあり、2015年（平成27年）は道内のJR駅の中で札幌駅、手稲駅、新千歳空港駅に次いで4番目に多くなっています。

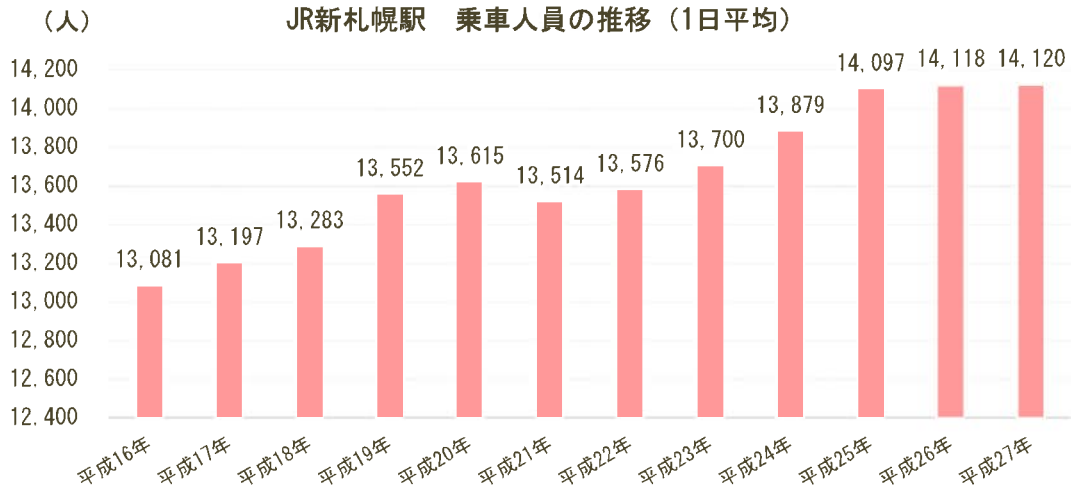


図 2-5 JR 新札幌駅 乗車人員の推移(1日平均)

出典：札幌の都市交通データ（札幌市）

表 2-3 主要駅の乗車人数上位 10 駅(2015 年度(平成 27 年度))

位	駅名	乗車人員（人/日）
1	札幌	95,288
2	手稲	15,335
3	新千歳空港	15,066
4	新札幌	14,120
5	琴似	11,518
6	桑園	10,084
7	小樽	8,973
8	千歳	8,623
9	白石	7,928
10	北広島	7,605

## バス

新札幌バスターミナルからは、厚別区内はもとより、札幌市内の都心部や隣接する清田区方面、また近隣市である江別市や北広島市方面をつなぐバスネットワークが充実しており、1日約1,200便が発着しています。

これにより、広範な地域の方々の地下鉄・JRへのアクセス性を高めることができ、交通結節点としての当地区の役割に大きく貢献しています。

### (3) 周辺施設

広場・公園周辺には、厚別区役所や区民センターなどの公共機能や商業機能が充実し、非常に利便性の高いエリアとなっています。また、今後も大規模な民間開発による新たな機能集積が予定されています。広場・公園はその中心に位置し、当地区全体への回遊性やにぎわいの連続に大きな影響を与える場所となっています。



図 2-6 広場・公園周辺図

## 厚別区民センター（厚別図書館併設）

厚別区役所と同一敷地内にある厚別区民センターは、ホールや和室などが完備され、地域の方々のコミュニティ活動と生涯学習を促進する施設として運営されています。

囲碁や将棋などを楽しむ集まり、生活に役立つ各種講座、サークルやボランティア活動等による利用やジャズコンサートの開催など、様々な利用がなされています。

区民センターは市内各区に1か所整備されていますが、全市平均の利用率66.4%に対し、厚別区民センターは73.1%となっており、全市で2番目に高い利用率となっています。

また、併設されている厚別図書館は、札幌市の図書館のうち、中央図書館に次いで2番目に来館者の多い施設となっています。

表 2-4 厚別区民センターの年間利用件数等

		2015年 (平成27年)実績	2016年 (平成28年)実績
ホール	件数 (件)	677	725
	人数 (人)	46,129	45,062
	稼働率 (%)	63.4	65.8
会議室	件数 (件)	2,710	2,622
	人数 (人)	33,506	31,772
	稼働率 (%)	84.2	81.5
実習室等	件数 (件)	1,419	1,482
	人数 (人)	24,021	24,480
	稼働率 (%)	67.1	69.4
和室	件数 (件)	2,213	2,257
	人数 (人)	43,812	46,654
	稼働率 (%)	68.9	69.4
計	件数 (件)	7,019	7,086
	人数 (人)	147,468	147,968
	稼働率 (%)	73.0	73.1

表 2-5 厚別図書館の年間来館者数

年度	来館者数	営業日数
2015年度 (平成27年度)	212,554人	326日
2016年度 (平成28年度)	201,350人	324日

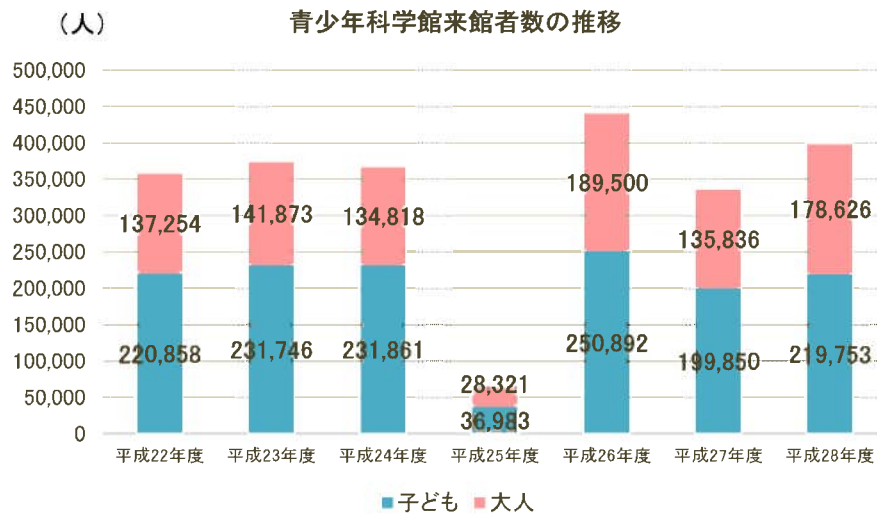
出典：札幌市

(以下、出典が札幌市の図表は出典の記載を省略)

## 青少年科学館

青少年科学館の来館者数は、2013年度（平成25年度）に耐震改修工事で約一年間休館した際に行った展示コーナーの一部改修の結果、2014年度（平成26年度）には、1981年（昭和56年）の開館以来最大となる約44万人を記録するなど来館者数が増加しています。

また、2016年度（平成28年度）には、約20年ぶりにプラネタリウム機器を更新し、世界最高水準となる約1億個の星空を再現するとともに、高精細な映像を映し出すことができるようになり、小中学生を中心とした子どもたちだけでなく、幅広い年齢層の方々の来館も増加してきています。



注:1)平成25年5月7日～平成26年4月23日耐震改修工事等のため休館

2)平成27年11月2日～平成28年4月13日機器更新のためプラネタリウム休止

図 2-7 青少年科学館来館者数の推移



2014年度(平成26年度)リニューアルした  
「天文・地球科学コーナー」



2016年度(平成28年度)リニューアルした  
「プラネタリウム」



## サンピアザ水族館・劇場

サンピアザ水族館の来館者数は、2016年度（平成28年度）には約15万5千人が来館しており、季節ごとに行われる特別展では、夏休み特別展の来館者数が最も多くなっています。

また、サンピアザ劇場の来館者数は増加傾向にあり、2016年度（平成28年度）には約1万8千人来館しています。主な利用としては、演奏会・発表会や演劇での利用が多くなっています。

表 2-6 サンピアザ水族館来館者数(年齢別)

	2014年度 (平成26年度) (人)	2015年度 (平成27年度) (人)	2016年度 (平成28年度) (人)
大人	97,620	97,957	102,489
子供	51,588	50,284	53,158
計	149,208	148,241	155,647



サンピアザ水族館の様子

表 2-7 サンピアザ水族館来館者数(期間別)

	2014年度 (平成26年度) (人)	2015年度 (平成27年度) (人)	2016年度 (平成28年度) (人)
GW特別展	13,813	13,362	17,400
夏休み特別展	31,543	28,470	29,001
秋の特別展	18,466	9,306	13,499
冬休み特別展	8,886	11,168	12,573
春休み特別展	9,589	11,352	14,944

表 2-8 サンピアザ劇場来館者数(イベント別)

	2014年度 (平成26年度) (人)	2015年度 (平成27年度) (人)	2016年度 (平成28年度) (人)
コンサート	2,199	2,522	3,581
演奏会・発表会	4,975	4,060	6,356
ピアノ発表会	798	1,322	932
講演会・研修会	697	1,588	1,056
落語会	254	762	400
カラオケ	739	791	150
学生演劇	1,626	1,865	2,517
演劇	3,503	2,268	3,198
上映会	179	334	412
その他	377	0	0
計	15,170	15,512	18,602



サンピアザ劇場の様子

表 2-9 サンピアザ劇場稼働日数(平日・休日別)

	2014年度 (平成26年度)		2015年度 (平成27年度)		2016年度 (平成28年度)	
	稼働日数 (日)	稼働率	稼働日数 (日)	稼働率	稼働日数 (日)	稼働率
平日	74	30.2%	49	19.8%	64	26.2%
土日祝	85	70.8%	74	62.7%	84	68.9%
計	159	43.6%	123	33.6%	148	40.4%

※出典：札幌副都心開発公社

## 光の広場

サンピアザ1階にある光の広場は、展示会や各種催しに対応できるスペース（約400㎡）となっており、2016年度（平成28年度）の利用状況は243日間/年で、利用率66.6%となっています。吹奏楽部コンサートや物産展などの催しが多数実施されています。

表 2-10 光の広場での主な利用目的(2016年度(平成28年度))

分類	日数 (日)
芸術・文化（展示、コンテストなど）	32
音楽（コンサートなど）	14
食（物産展、マルシェなど）	10
商業施設・テナント関連	127
その他	60
合計	243



光の広場の様子

※その他は、新春イベントや日本ハムファイターズトークショーなど

※出典：㈱札幌副都心開発公社

## 再整備に向けて（人口・公共交通・周辺施設の現状を踏まえて）

厚別区は、札幌市の中でも少子高齢化が進んでおり、今後もその傾向が続くことが予想されます。引き続き、広場・公園を活用し、区の中心である新さっぽろ駅周辺地区におけるにぎわいを創出し、それを区全体へ波及させること、また幅広い世代に魅力を感じてもらえるような地域づくりに貢献していかなければなりません。

公共交通機関が至便な当地区では、通勤・通学、買い物等で多くの方が足を運び、さらに、周辺の青少年科学館や水族館など楽しみながら学べる多くの施設によって、文化・教育的な風土が生まれ、小さな子ども連れも家族が多く訪れます。

さらに、区民センターやサンピアザ劇場や光の広場では、演奏会や発表会・演劇など、多くの若者や学生が活躍しています。

今後、広場・公園は、多くの方々が来訪する地域にある優位性を生かし、若者や学生が活躍し、多世代の交流を促進できるような活用を目指す必要があります。



## 2 ふれあい広場あつべつ・科学館公園の利用状況

### (1) 広場の利用状況

ふれあい広場あつべつでは、1年を通して様々なイベントが行われています。

表 2-11 広場での主な利用実績(2016年度(平成28年度))

	イベント名	規模	参加人数 (人)	概要
1	ノルディックウォーキング 体験講座	小	40	2本のポールを持って歩くノルディック ウォーキングの体験講座
2	大工のゆうさんと遊ぼう 木育ふれあい広場 in あつべつ	小	100	木製玩具などの木製品に触れる場や木工 工作の体験会を実施
3	区民交流ウォーキング大会	小	130	区民の健康づくりとウォーキングによる 交流を促進
4	春だ！大人も子供も 新札幌まつり！	小	200	全国のB級グルメブースなどを展開
5	札幌市厚別消防団消防 総合訓練大会	小	200	区内の消防団員の訓練大会や、防災グッズ 等の啓発を実施
6	地球スペシャル エイサーページェント	小	500	沖縄伝統芸能であるエイサー体験、関連 飲食ブースなどを展開
7	フリーマーケット	中	1,000	市民が多く集うフリーマーケット。平成 28年度は5回開催。
8	子育てふれあい サマーフェスタ	中	1,000	水遊び・昔遊びなど、乳幼児から小学生ま で楽しめる夏祭り
9	OG-1 グランプリ	中	1,000	札幌おやじネットワーク等によるグルメ NO.1 決定戦イベント
10	夢市場あつべつ	中	1,400~ 2,500	フリーマーケットや障がい者小規模共同 作業所による展示・販売、環境啓発などを 目的とした協働企画を開催
11	YOSAKOIソーラン祭り 新さっぽろ「あつこい」	大	3,000	YOSAKOIソーラン祭りの新さっぽ ろ会場
12	新さっぽろ冬まつり	大	3,800	雪のすべり台や小雪像、雪遊びコーナー のアトラクションを展開
13	厚別区子どもまつり	大	4,000	キッズダンスや吹奏楽、出店コーナーな ど子どものお祭り
14	厚別区民まつり	大	70,000	各種ステージイベントや飲食ブースが展 開される厚別区最大の催し

#### 【規模について】

- 小：小規模イベント 参加者数 1,000人程度 ※複数回開催しているイベントあり  
 中：中規模イベント 参加者数 1,000~3,000人程度 ※参加人数は申込時の申請人数  
 大：大規模イベント 参加者数 3,000人程度~

## 主なイベントの紹介

### ○ YOSAKOIソーラン祭り新さっぽろ「あつこい」〔6月開催〕

YOSAKOIソーラン祭りの新さっぽろ会場として、厚別区民の有志によって運営されており、当日は全国各地から集まった踊り子たちの熱い演舞が繰り広げられています。また、YOSAKOIソーランだけでなく、厚別区にゆかりのある吹奏楽団体の演奏なども披露されています。



YOSAKOIソーラン祭り新さっぽろ「あつこい」の様子

### ○ 厚別区民まつり〔7月開催〕

厚別区民の交流の機会として、町内会や企業、関係団体など区民が主体となって開催している夏祭りです。1990年（平成2年）から毎年開催しており、2日間にわたってビアガーデン・食べ物コーナー等の出店のほか、キッズダンスやYOSAKOIソーラン、バンド演奏等のステージ、厚別音頭踊りなどが披露され、厚別区全体が盛り上がる代表的なイベントとなっています。



厚別区民まつりの様子

○ 厚別区子どもまつり〔9月開催〕

巨大迷路や綿あめなどの出店のほか、吹奏楽演奏やキッズダンスなど、地域で活動している団体によるステージ発表が披露されます。また、各地域の子どもたちも縁日やゲームコーナーなどの運営を大人と一緒に担っており、おまつりを楽しむ場というだけではなく、社会体験の場、世代間の交流の場としても貴重な催しとなっています。



厚別区子どもまつりの様子

○ 新さっぽろ冬まつり〔1月開催〕

雪のすべり台や雪遊びコーナー、手づくり雪像などが作られ、子ども連れの親子などでにぎわう冬のイベントです。「地域住民・団体の手で会場を作り、参加できるおまつり」をコンセプトに2日間にわたって開催されており、冬の屋外でもゆっくり楽しんでもらえるよう、暖かい飲食の提供も地域の人の手で行われています。冬場のにぎわいを作り出す、厚別の冬の風物詩の一つとなっています。



新さっぽろ冬まつりの様子

## 広場全体の利用率

広場の利用件数は、中規模以上のイベントが全体の半数以上を占めています。イベント件数は増加傾向にあり（図 2-8）、規模別の広場利用日数は、大規模のイベントが最も多くなっています（図 2-9）。

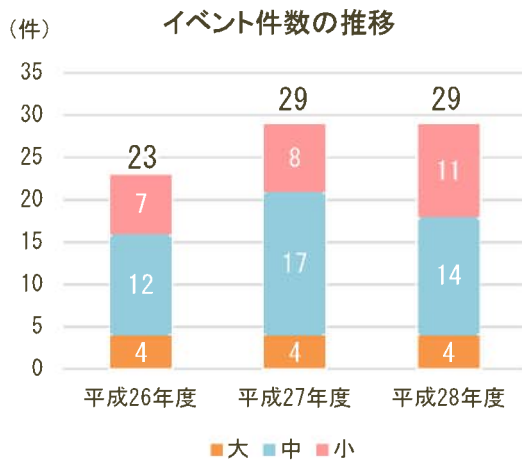


図 2-8 広場でのイベント件数の推移

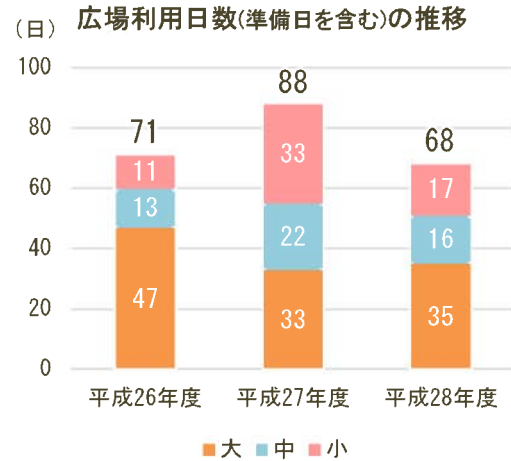


図 2-9 広場利用日数(準備日を含む)の推移

### 〔規模について〕

- 小：小規模イベント 参加者数 ～1,000 人程度
- 中：中規模イベント 参加者数 1,000～3,000 人程度
- 大：大規模イベント 参加者数 3,000 人程度～



2016年度（平成28年度）の広場利用日数は68日で、利用率は18.6%となっており（図2-10）、季節毎に見た広場の利用日数は、夏（7～9月）が最も多く、秋（10～12月）が最も少ない状況です（図2-11）。

		1年間		2014年度 (平成26年度)		2015年度 (平成27年度)		2016年度 (平成28年度)	
		全体 日数(日)	利用 日数(日)	利用率	利用 日数(日)	利用率	利用 日数(日)	利用率	
広場利用日 (準備日 含む)	平日	247	39	15.8%	43	17.4%	34	13.8%	
	休日	118	32	27.1%	45	38.1%	34	28.8%	
	計	365	71	19.5%	88	24.1%	68	18.6%	

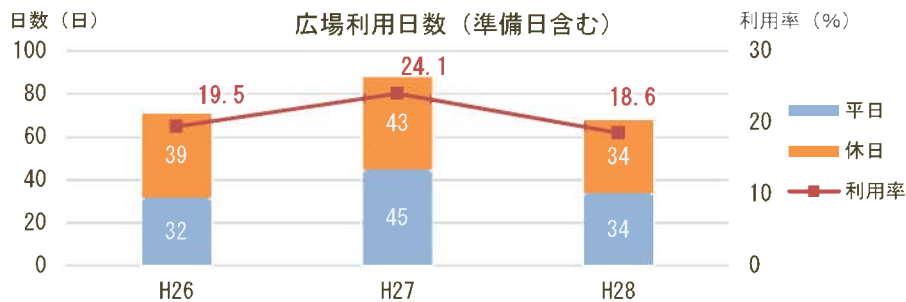


図 2-10 広場の準備日を含む利用日数の推移

※1年間の平日・休日の全体日数（休日・平日）は、2014年（平成26年）の日数を採用。

		2014年度 (平成26年度)		2015年度 (平成27年度)		2016年度 (平成28年度)	
		平日	休日	平日	休日	平日	休日
春 (4～6月)	平日	1	8	7	22	3	17
	休日	7	(6)	15	(10)	14	(11)
夏 (7～9月)	平日	20	33	24	45	17	29
	休日	13	(15)	21	(14)	12	(14)
秋 (10～12月)	平日	0	3	1	5	1	3
	休日	3	(3)	4	(4)	2	(3)
冬 (1～3月)	平日	18	27	11	16	13	19
	休日	9	(1)	5	(1)	6	(1)

※利用日数の下の（）内はイベント件数。

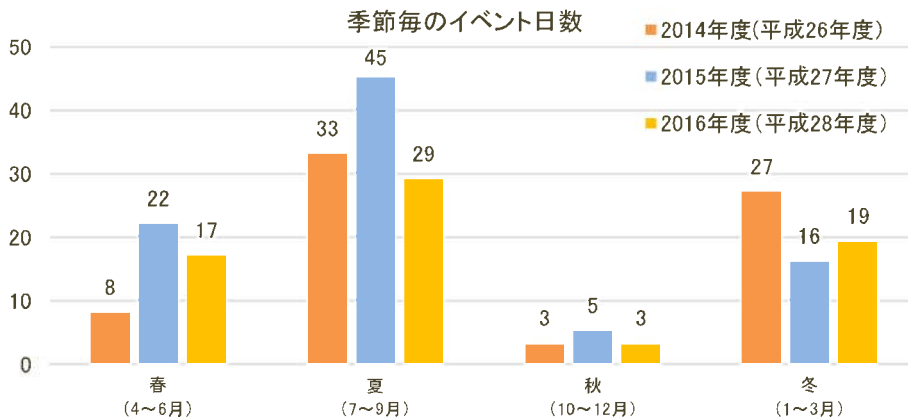


図 2-11 広場の季節毎の利用日数

## ステージ・パーゴラの利用率

ステージの利用率は、全体で見ると約 5 割となっていますが、大規模のイベントでは必ず利用されています。

パーゴラの利用率は、全体で見ると約 8 割弱となっており、大規模と中規模のイベントでは必ず利用されています。

飲食実施率は、全体で見ると約 3 割にとどまりますが、大規模のイベントでは必ず実施されています。

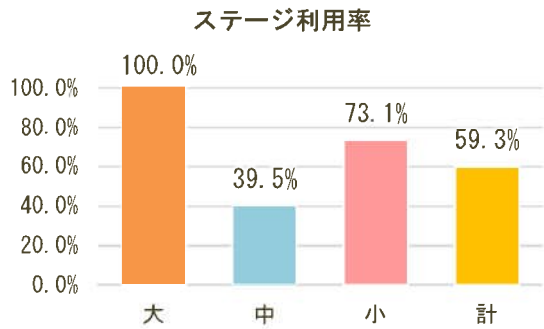


図 2-12 ステージ利用率 ステージの様子

※ステージテント（屋根）は5月上旬～10月末までの設置

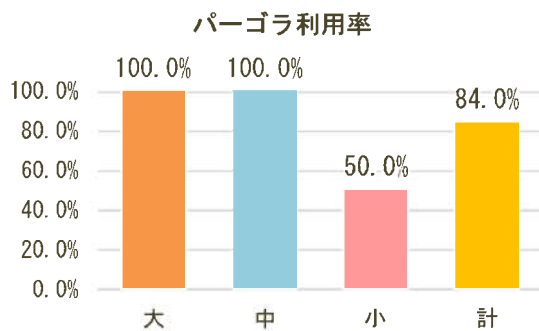


図 2-13 パーゴラ利用率 パーゴラの様子

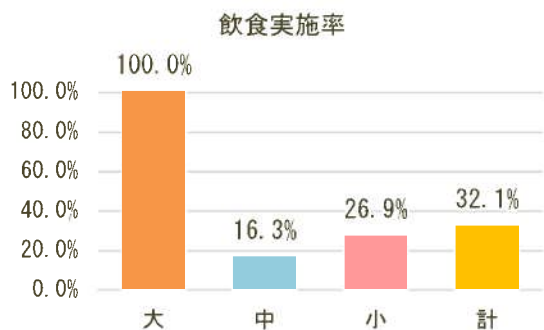


図 2-14 イベントでの飲食実施率もまつりの飲食店の様子

※グラフは全て平成 26～28 年度の合計値



## (2) 公園の利用状況

### 北側

#### ①キラ☆キラ広場

2010年（平成22年）に厚別区誕生20周年記念事業の一環として整備された噴水広場です。「みんなが安心してくつろげる賑わいの空間」をキーワードに、特に小さな子どもの利用にスポットを当てた整備がなされており、現在も多くの親子がにぎわう空間として活用され、貴重な施設となっています。



キラ☆キラ広場の様子

#### ②園路（駐輪場）

商業施設と公園を結ぶ科学館前の園路上には、通勤・通学者等のための仮設駐輪場が設置されており、歩行空間を一部阻害しています。そのため、隣接するキラ☆キラ広場を人や自転車通り抜けるなど、動線化してしまっている現状があります。



園路上にある仮設駐輪場の様子

### 南側

多くの機能が集積する駅周辺において、自然を感じられる貴重な散策路となっています。ただし、平坦ではなく高低差があることに加え、成長した高・低木が密集していることから、視認性が悪く利用者は少ない状況です。また、公園用のトイレも設置されていますが、同様の理由で利用しづらい状況です。



南側の様子

## 中央部

青少年科学館のエントランス広場となっており、コンセプトに即した日時計やモニュメント等が設置されているほか、地下鉄出入口が設置されています。

開かれた空間を利用して、区民まつりの際には飲食等の出店が並ぶなど、広場とともににぎわいの創出に寄与しています。

しかし、日常的に人通りも多くなく、人が滞在するようなにぎわいは少ない状況です。



公園中央部の様子

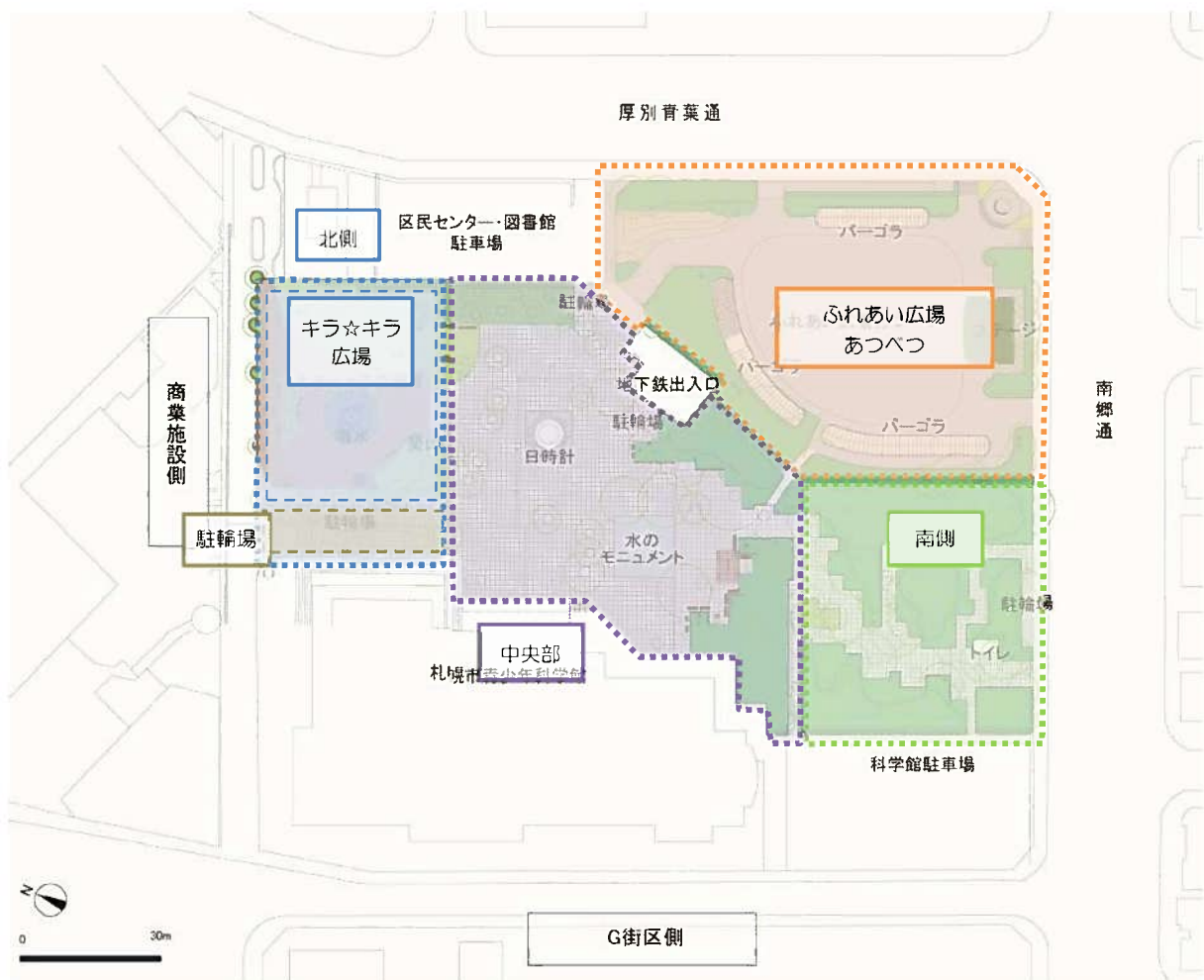


図 2-15 計画地区図

### 3 利用者等のニーズ調査

#### (1) アンケート調査

広場や公園利用者及びその周辺の通行者や施設利用者を対象に、広場や公園の日常的な利用や今後の利用に関するアンケート調査を行いました（詳細は、資料編 P. 42 参照）。

#### 調査概要

	調査日時・期間	回収数
① 街頭 アンケート	・ 広場・公園及びその周辺でイベントが開催される日を 除く、平日・休日の各1日（土曜日とも休日とみなす）。 休日：2017年(平成29年)8月19日(土)10時～18時 平日：2017年(平成29年)8月21日(月)10時～18時	127件 (休日60件、平日67件)
② 配架 アンケート	・ 厚別区役所、厚別区内まちづくりセンター等の 公共施設やJR、地下鉄などの公共交通機関にて配架) 2017年(平成29年)8月19日(土)～9月6日(水)	242件
		合計 369件 うち無効票数 21件

#### 主な調査結果（再整備内容に関する主な回答）

<p><b>将来のあり方について</b></p> <p>Q より多くの方に利用してもらうために、科学館公園はどのような場所になったら良いと思うか。 1位：気軽に休めてくつろげる場所 26.7% / 2位：親子が安心して遊べる場所 26.6%</p> <p>Q 今後、ふれあい広場あつべつでどのようににぎわいを生み出したら良いと思うか。 1位：イベント情報をもっと知ってもらえるようPRする 34.1% / 2位：多くのお祭りやイベントを実施する 33.3%</p>
<p><b>広場・公園全体の望ましい整備内容に関する意見</b></p> <p>Q 多くの方に利用され、にぎわいを生み出すためにはどのような整備を行うと良いと思うか。 1位：ベンチやテーブル等の休憩設備の設置 24.4% / 2位：明るく見通しの良い空間や芝生の整備 20.4%</p>
<p><b>利用に関してネガティブな意見</b></p> <p>Q 科学館公園を利用したことがない方の理由 1位：居住地から遠い 23.4% / 2位：存在を知らなかった 20.6%</p> <p>Q ふれあい広場あつべつのイベントに来場したことのない方の理由 1位：イベントを実施していることを知らない 44.0% / 2位：居住地から遠い 24.8%</p>
<p><b>再整備に関する自由意見</b></p> <p><b>【飲食について】</b> ・屋台やフードカーなどが平日にあれば利用したい。 / ・カフェやワゴンサービスをつくってはどうか。</p> <p><b>【イベントについて】</b> ・休日でも何もイベントを実施していない時もあるので、イベントを増やしてほしい。 ・色々なイベントがあつて良い。区外の人に来てくれたらもっと活発になるのではないかな。</p> <p><b>【周辺施設との連携について】</b> ・周辺施設との連携をはかってほしい。(イベントでの連携、空間・動線としての連携)</p>

## (2) あつべつ区民協議会(厚別のにぎわい検討委員会)からの意見収集

地域の方々による自主的なまちづくり検討の場である「あつべつ区民協議会」には、主に厚別区のにぎわい創出に関して意見交換を行う「厚別のにぎわい検討委員会」という部会があります。

当部会でなされた広場・公園の再整備に関する自由な意見交換の内容について、「ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会」に資料として提出していただくとともに、同あり方検討委員会にも一部委員として参加していただくなど、地域の声をより反映できるように連携を取りながら本計画の策定を進めました。(詳細は、資料編 P. 41 参照)

### 再整備に向けて(広場・科学館公園の利用状況、利用者等のニーズを踏まえ

広場・公園では、厚別区民まつりを中心に、地域全体で担い・楽しむことができ、多くのにぎわいを創出している大規模なイベントが開催されています。これら地域が必要としている歴史のあるイベントを引き続き支えていくことが求められます。

しかし、広場の年間利用率は決して高くなく、特に秋・冬の季節の利用が少ないという課題があることから、四季折々に1年中にぎわいを生むことに寄与できる空間とすることが求められます。

加えて、公園内に設置されている仮設駐輪場によって、公園・広場の回遊性が阻害されており、両者の連携や一体での活用がしづらい状況となっていること、さらに、アンケート調査では「気軽にくつろげる」「親子が安心して遊べる」といった意見がある一方で、「多くのお祭りやイベントを実施する」ことを望む意見も多くあることから、広場・公園を一体的に捉え、様々なニーズに応えられるような再整備を目指す必要があります。

また、アンケート調査では飲食サービスの提供やイベントの増加、周辺施設との連携など、にぎわい創出に繋がるソフト面の取組みについても意見が出されていることから、将来的な広場・公園の一体的な管理・運営のあり方等も含めた検討も求められます。



## 4 老朽化施設の状況

### (1) 広場

#### ■照明・スピーカー

- 柱部分にサビが見られません。
- 灯具やスピーカーなどの設備の経年劣化による作動不良が見られます。



#### ■パーゴラ

- 屋根材が劣化（白化）しています。
- 軒先部分にサビがみられます。
- 屋根のおさえ材にめくれやサビが見られます。



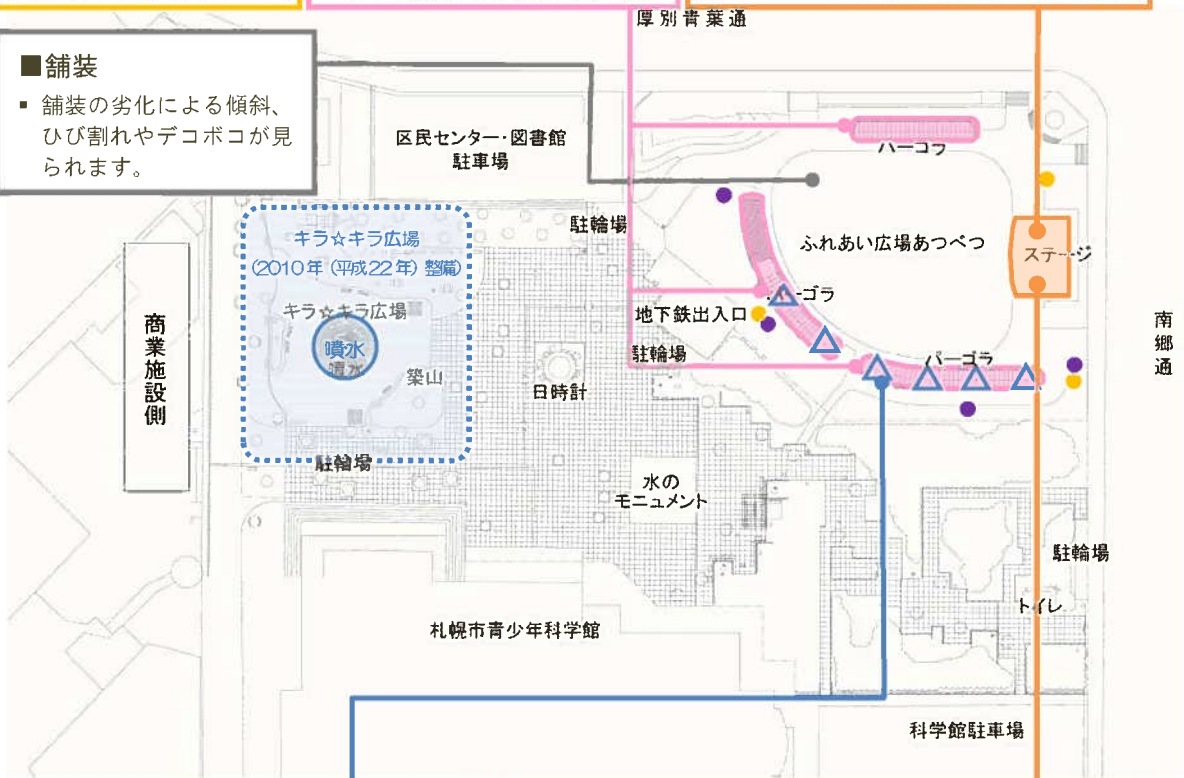
#### ■ステージ・テント

- 前方の骨組み（鉄骨）やテントは耐用年数が経過しており、破損などが見られません。
- ステージ床面・側面が劣化しています。
- ステージ天井の照明が故障しています。



#### ■舗装

- 舗装の劣化による傾斜、ひび割れやデコボコが見られます。



#### ■給排水設備（地下水栓）

- 腐食や使い勝手の悪さ（地下水栓からのホース接続が必要であるなど）が見られます。

#### 【凡例】

- 照明
- スピーカー
- △ 水栓

#### ■ステージ地下室

- 空調設備、雨水ポンプなど設備の耐用年数が経過しています。
- イベント時の控室使用などで、スペースや間仕切り等がないため、イベント時の控室使用として、利用しづらい状況が見られます。



図 2-16 広場の老朽化の状況

## (2) 公園



図 2-17 公園の老朽化の状況

### 再整備に向けて（老朽化の状況を踏まえて）

これまでの章で確認してきたとおり、広場・公園では、一体的に利用して行われる大規模なイベントから小・中規模のイベントまで、多様なものが開催されています。

地下鉄や JR の駅前空間でありながら、ステージやパーゴラ、水栓設備などを気軽に利用できる環境は、地域を中心とした利用者にとって非常に貴重な存在です。

今後も多様なイベント・にぎわいを支える空間として、既存設備の必要な更新と更なる改善を行い、引き続き利用者の利便性と安全性を確保することが必要です。

また、多くの方々が日常的に利用する公園内でも、歩行空間となりうる箇所や照明設備等の老朽化、また樹木の密集など、視認性や安全性に課題を抱えていることから、再整備の中で課題を解消し、将来の更なるにぎわい・やすらぎの創出に向けて再整備を行う必要があります。

## 5 周辺開発の状況（G・I街区の開発想定）

### G街区の開発〔2021年4月開業予定〕

G街区の開発では、文系学部及び看護学部の大学の設立、産学連携施設の設立が予定されています。地域に開放される多目的ホールや図書館機能を集積し、多くの学生が集まることによる、にぎわい創出や地域コミュニティへの寄与が期待されています。



図 2-18 南郷通側から見たG街区のイメージパース

出典：新さっぽろ駅周辺地区 G・I街区公募提案審査報告書



## I街区の開発〔2022年4月開業予定〕

I街区の開発では、医療施設4棟、集合住宅、宿泊施設、商業施設の整備が予定されており、にぎわいを生む広場空間をホテル前面、集合住宅後ろの2か所に整備することで、多様な機能集積による持続可能なにぎわいの創出が期待されています。



図 2-19 原始林通から見たI街区のイメージパース

出典：新さっぽろ駅周辺地区 G・I街区公募提案審査報告書

### 再整備に向けて（周辺開発の状況を踏まえて）

G・I街区のような大規模な開発は、新さっぽろ駅周辺地区のまちづくりを進めるうえで非常に大きな効果をもたらします。

広場・公園においても、この機を逃すことなく、地区全体に最大限の効果を発揮できるような再整備が求められます。

とりわけ、隣接するG街区の開発により、学生を中心とした多くの若者が来訪することが予想されることから、周辺施設との動線上のつながりを強化し、まち全体の回遊性向上と広場・公園自体のにぎわいを向上できるような整備が求められます。

また、動線上のつながりのみではなく、周辺商業施設やG街区の教育施設との積極的な連携によって、若者や学生が活躍できるような利活用ニーズの発掘、にぎわい創出の新たな担い手の育成などを目指す必要があります。